

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ケアガーデンオアシス グループホーム「つきとほし」
(ユニット名)	つき
所在地 (県・市町村名)	長崎県諫早市福田町2番22号
記入者名 (管理者)	「つき」ホーム長 坂口 千鶴香
記入日	平成 20 年 2 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を元に取り組んではいるものの地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、今後どのように地域と密着していくのかさらに皆で築いていきたい。	現在の理念を再度新たに確認し、今後も地域との支えあいの中で具体的なイメージを持って作りあげていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に話し合いの場を持ち(スタッフ会議等)理念を共有したりその実践の取り組みを確認する機会を得るようにしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には個別や家族会等で取り組む事は出来てはいるものの、地域の方に対してはなかなかそこまで果たせていなかったが、昨年より運営推進会議を設けるようになってから地域の住民の代表の方々にも理念を話す機会が持てるようになった。	運営推進会議を設けるようになってから徐々に地域の方々や家族の方の理解と協力等が(ホームだより)上手く出来るようになった。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々散歩や買物などに出かけ、近隣の方たちと気軽に挨拶を交わしたり話をしたりしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所近辺の小学生が遊びに来たり、中学生や高校生がボランティアとして活動してくれるなど地域との交流もあり町内会にも加入している。昨年は施設長が運動会の参加もしている。	町内会に加入している。他の入居者も町内の老人会等に参加できるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所での実践内容を踏まえて何か意見を頂いたりした時は、素直に受け取り前向きに行動に移せるように取り組んで行きたい。		地域住民を対象に認知症に対する理解や接し方についての勉強会の場を設けたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行いサービスの向上に努めている。さらに外部評価により改善に向けて具体案の検討や実践につながる為の努力をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を取り入れてからその経過を報告し今後もひとつひとつ積み上げて行く事によって実際の現場の様子を持って頂くことが出来るようにこれからも努めて行きたい。		外部の意見を引き出してこれからもより一層会議につなげて行きたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と今後も課題解決を図って行く。また、関係作りを積極的に行いこれからも職員や利用者との交流も図りたいと思う。		これを機会にこれからも市町村とともにサービスの質の向上に取り組んで行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護事業や成年後見制度についての研修を受講はしているものの内容等に関しての話し合いの場は出来ていない。そのため必要な時に支援できる体制ではない。		今後は勉強会など取り入れてこれからも努力して行きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みなど行なっている。特に(注)言葉かけなど。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、しっかりと時間を取って説明しているものの家族や利用者に対して不安が生じてないか相手の立場になり納得していただいた上で十分に慎重に説明している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員に不満や意見等を訴えた時などは、直ちにその思いを除することが出来るように心掛けている。常に利用者の不安や意見などは話し合いの場所を持つように努力している。</p>		<p>利用者の不安や意見などに関しては、ミーティングや会議などを設けその都度説明し、また努力をしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に声をかけ報告したり、電話での報告をしたりしている。急変時には直ちに電話で報告をしている。金銭面に関しては、出納長に記載している詳細に毎月一回目を通して頂き、家族が確認された上でサインを頂いている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の意見など常に認識し謙虚に受け止め職員の意見にも耳を傾け、その上で家族との対応にあたっている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>事業所の会議が月に一回開催される。各現場の声を反映させる事が出来る。また、その後ユニット会議を開き職員への報告を行なう。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中は三人体制で勤務構成している。限られた勤務の中で職員の負担も大きい。そうそう柔軟な対応も出来ないが出来る限り努力している。</p>		<p>スタッフ増員の確保に努めている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設内での移動は無いが、職員の入れ替わりは利用者に対して伝えるように出来るだけダメージにならないように配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修や他の事業所の研修の受講もなるべく多くの職員が出来るようにしている。また、スーパーバイザーのアドバイスも受け止めている。		事業所外で開催される研修にも多くの職員が受講できるようにしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等にも参加し交流する機会を持ちながら、管理者同士協働しながらサービスの質の向上に取り組んでいる		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	。事業所には今後職員全体のストレス軽減を緩和いくように取り組んで行く。		運営者は業務的なところをもう少し把握して対応に努めていただきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は必ず毎朝現場にきており問題が生じた時は常に報告し状況を把握してもらっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の生活の中でひとりひとりの悩み相談等などがあればその都度対応し受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時など取り入れながら家族からの意見や欲望等、よく耳を傾けて日々受け止める努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族・職員と常に相談しながら、入居者が安心した生活が送れるように工夫したい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人として教えを請うことも多くあり、出来る事・出来ない事をお互い共有しあってお互いが協働しながら和やかな生活が出来るように場面作りや声かけ等に心掛けている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	些細な出来事も含め、家族には常に情報を提供している。又、家族の思い・本人の思いを受け止めて、本人と家族の絆も築けていると感じる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人への思い・本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けている。又、良い部分を見出せるようホーム側としては努力している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知り合いが遠慮なく面会に来られるように大切にしている。時には電話をかけてあげたり、馴染みの方との継続的な交流が途切れないように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関わりで難しい場合は、職員が寄り添うように心掛けている。又、入居者同士でも好き嫌いもったり心身の状態や気分、生活する上で様々な問題がある。その都度、関係が上手くいくように支援する努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、お見舞いがてら様子を伺う事はあるが、ほんの一部の方にしからずさない。		今後も、入居者に対して良い関係作りが出来るように働きかけていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望は、日常の暮らしの中で声かけ等で把握に努めている。何気ない言葉や表情などに気をつけ、それとなく確認するように心掛けている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや家族を中心とした聞き取りや情報提供で把握している。さらに本人との話の中で今まで知り得なかった事実なども新たに聞き取る事が出来、常に本人とのコミュニケーションを大切にしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々生活の中で現況把握に努めている。特に気づきがあった場合は、直ちに対応できるように心掛けている。些細な変化も見逃す事の無いように日々健康管理に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との日頃の関わり合いの中で思いや意向を聞いた上で職員全員で意見交換やモニタリング・担当者会議を行なっている。		定期的に勉強会を開催し、知識を深めるとともに一層の質の向上に努めていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を把握し、状態や状況が変化した場合は、家族や本人の要望を取り入れた上で途中見直しを行い、新たなケアプラン作成に心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、身体的・食事・排泄等及び日々の暮らしの様子や本人の言葉等を記録している。全ての職員が確認できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階にあるデイサービスを利用し、訓練等を行なっている。又は、施設内の中庭で趣味活動等取り入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々によるボランティア・消防・踊りなど協力していただき、今後も交流の機会を設けて行きたい。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問や、行きつけの美容院や理容院を利用し、又は体調に合わせて往診の依頼も行っておりその都度の対応に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとは、今の所関わりは無い。		グループホームにおける地域包括センターとの関わりが、今一はっきりしない。今後活用できるように情報交換につなげて行きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかぞく・本人の希望ににに応じた対応をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医に限らず、認知症にも詳しく私たちの相談にも心易く答えてくださる方なので頼りにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医・看護師と気軽に相談しながら、日常等の助言や対応を行なって頂いている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の情報を医療機関に提供し家族とも状況説明しながら、蜜に速やかな退院支援に結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、本人や家族の意向を(今後本人にとってどうするのが一番良いのか)中心に話し合いの場を持ち、家族や医師の支えになるようにしている。又、状態の変化がある事には密に報告し、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払うように努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族にははっきりした事を知っていただく為にも主治医の話をしっかり聞いていただくようにしている。重度化のケアになると職員の負担も大きい。今後の変化には注意を払い最大限の支援に日々取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に転居の場合、情報交換を行い職員が機会を作り訪問に行く事もあり、これまでの暮らしの妨げにならぬように環境に、より近い生活が出来るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりのプライバシーには気をつけているが、個人に合った本人の一番好む声かけをしている。個人情報に関しては常に慎重に取り扱うよう努めている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常にひとりひとりのプライバシーには気を付けている。入居者の立場になって耳を傾けると同時に、本人の希望や好み等を把握し日々の密接な関係の中で、出来るだけ自己決定が出来るよう心掛けている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望む生活基準として努めてはいるが、日々の業務に追われて職員の都合を優先する事もあり、希望に添えない事もある。	ひとりひとりのペースを守る為に、日々の業務の中で職員同士が常に工夫していく事が大切であるが、職員増員も検討して行く必要がある。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容院・美容院、訪問の美容師さんに来てもらっている。個人的に家族の方がパーマなど行きつけの店へ外出される方もいる。また、朝起床時には化粧をされる方もおられ、本人の気持ちにそった支援に心掛けている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成する際、好きな食べ物等をお尋ねして入居者と相談しながら決めている。又、調理・盛り付け・配膳・片付け等、共に行い一緒のテーブルを囲んで雰囲気作りも大切にしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物等は、いつでも自由に飲めるよう提供している。おやつは、嗜好物など取り入れ、時折入居者と一緒に手作りおやつなど工夫しながら作る事もあり日々喜んでいただけるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し時間や習慣を把握してはいるものの、やはり失敗も見受ける。トイレへ誘導の際は、さりげなく傷つかないように配慮しながら対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する時にいつでも入浴できる体制に日々努めている。入浴嫌いな方に関してはタイミングを大切にしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の生活のリズムに合わせてながら寝付けない時は温かい飲み物を提供し就寝に向けた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お手伝いをお願いしたり、近所への買物やドライブなど出かけたり得意分野でひとりひとりの力を発揮できるように支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は所持していただき、買物などに出かける時は本人が支払えるように支援している。出来ない方に関しては、ホーム側で管理し、本人の希望に応じて買物などする機会を支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は本人の体調に合わせて日常的に散歩や買物等を行なっている。又、季節を肌で感じてもらいたいという思いと気分転換を兼ねて行事の中でドライブ・食事等、支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々にて、ピクニック等実施しており、職員の勤務調整をしながら常に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名ではあるが電話がかかってきたり、こちらからかけてあげることあり、プライバシーには十分配慮しながら個別に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	比較的、家族や知人の面会が多いと思う。気楽に来て頂けるように笑顔でお迎えしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、自由に出入りが出来ないが、共に職員と一緒にしかけることに心掛けている。		出入口の鍵の開錠を試みたいが危険性を考え、アラーム等を職員の目配り強化にて努めて行きたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者と同じ空間で安全に配慮するように心掛け見守っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況を把握しながら適切に対応している。刃物・洗剤類等に関してはホーム側で管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとりひとりの状況に応じて想定される事故を検討している。事故報告書やヒヤリハットを作成し、今後の予防対策につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。救急救命講習会にも参加し知識向上にも努めている。		全ての職員が応急手当救急救命等の研修会に参加し、実際の場面で生かすことの出来る技術を身につけたいと思う。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し避難訓練を行なっている。消火器の使用法・非難経路の確認を定期的に行なっている。		夜間帯での訓練の実施が出来ていないので、出来るだけ早く実施したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうるリスクについては把握しており、家族等に対して見てもらったり具体的に説明し理解して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックを行い、普段の体調の管理には気配りが出来ている。変化に気づいた時は、主治医に報告し常に指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ひとりひとりの薬リストを作成して全職員が把握できるようにしている。服薬時には、本人に声かけをして手渡し、飲んだかどうかの確認のチェックまできちんと行なうように心掛けている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食事に心掛けている。水分摂取や運動などにも気を配っている。それでもスムーズにいかない方に関しては主治医の指示にて下剤でコントロールしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアは徹底して行なっている。又、状況によっては歯科医による口腔ケア指導のもとお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事摂取量は、毎食後常にチェックしており水分補給にも気を配っている。夜間には水分が摂れるように湯のみ茶碗やペットボトルに白湯を入れて入居者に方がいつでも補給できるように心掛けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し、全職員で学習し予防に努めている。インフルエンザの予防接種は入居者全員と職員も受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日買物に行き食材を残さないようにし、調理器具・食器等は洗浄後乾燥機を使用している。又、週に2回は冷蔵庫の中の期限切れのチェックや消毒・掃除に心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	構造上の観点からエレベーター前の玄関は閉められている。出入り口は暗証番号になっており自由に出入りする事は出来ないがあかっている雰囲気になるように花や観葉植物等を飾ったりし、季節感を感じ取っていただけるように工夫している。		建物上施錠しているが、出来る限り昼間のみでも開放できるように取り組んでいきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしたり、テーブルの向きを替えたり、また花などを飾ったりし居心地の良い空間作りを心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋は足をゆったり伸ばしてくつろげるようにしている。廊下にも椅子を配置し、また疲れた時にはリビングにもソファを置くなどちょっと一息つく場所を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の飾り付けや家具の配置については本人と家族中心にさせていただき、好みや馴染みのあるものなど配慮し、居心地のよさに心掛け環境作りに努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除の際に必ず換気をしている。その他にも必要な時には換気をしている。温度計・湿度計で居室の調整は管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、トイレの手すりの追加や居間の手すり等設置完了した。安全に生活で出来るように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室やトイレなどに分かりやすいように表示をすることで場所の認識間違いを最低限にするように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の構造上もあるが、ベランダには花を植えたプランタンを置いたり、野菜を植えたり、天気の良い日は洗濯物を干したり布団を干したりなど活動できている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

人間らしく、その人らしい生活基準の中でのびのびと暮らせるように支援してゆく。 町の中心にあり交通の便も良くいつでも立ち寄って頂ける。 敷地内の中庭を利用し、天気の良い日は手作りのお弁当など持参し、ピクニック気分を楽しみ、とても喜んでいただいている。 年間行事の中で、家族会（家族交流会を兼ねて）昨年より多数の参加を頂き、とても有意義な会となった。